

外国人児童に対して行う日本語指導の発展について

3年1組3番 一政恋

Keyword: 「日本語指導」「外国人児童」「ボランティア」「日本語教材」「学習法」

1. はじめに

私は、外国人児童に対して行う日本語指導の発展について探究した。私がこの探究を始めたきっかけは、偶然「外国人児童に対して今日本が行っている日本語指導」についての記事を読んだことだ。この記事を読み進めていくうちに、私は外国人児童に行っている日本語指導の現状や外国人児童が日本に住んでいて十分に日本語を話せないことなど、多くのことが日本で大きな問題となっていることを知った。もともと私は言語学習や外国の人々と関わることが好きで、探究テーマにも日本と外国とのつながりを取り入れたいと考えていたため、私はこの探究テーマに決めた。

2. 序論

文部科学省の調査によると、日本語指導が必要な外国人児童の人数は年々増加しており、約10年間で1.8倍になっていることがわかる。過去の調査で、これらの児童たちの多くが高校に進学することができないことがわかっている。私は、この問題を少しでも解決に近づけるために、日本語指導の補助として、50音かるたを作った。そして、それを使って日本語指導にどのような効果が与えられたのかを調べた。

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移①



3. 本論

私は、実際に日本語指導を行っているところを見たり自分が児童たちに教えたりするために、桜井市にある「日本語サロン」という日本語教室でボランティアをおこなった。ここでは、日本語を十分に扱うことができない外国人児童の数が増加していく原因として、充実した学習スペースや、日本語指導者の不足が挙げられることを知った。また、これらのことが挙げられる理由として、日本語指導は基本的にボランティアベースで行われているため、定期的に場所をとることができなったり、指導者が時間をとることができないためであることも聞いた。言語学習は継続していくことが最も重要であるため、それができない現状が続く限り、日本語指導は発達していかないだろうということを指導者の方から聞いた。

日本語サロンで日本語を教えている指導者さんに実際に私が作成した50音かるたを使って実践の様子を見せてもらった。すると、普通のかるたとして使用するだけでなく、絵札に使われている色やものを日本語で言ってもらったり、自分でカードを取ってもらってそのカードの頭文字から始まる日本語の言葉を作ってもらったりと、様々な使い方がされていた。また、絵札の文化が児童たちの国にもあるかを聞いたり、絵札に描かれている日本の文化を説明したりもしていて、ただ取るだけではなく、知識も広がっていくような使い方もされていた。そのため、ただの遊びとして使用するだけでも、五十音をもうすべて覚えている児童たちが退屈したりするようなものではなかったことがわかった。児童たちの知識が広がるかるたの使い方を日本語指導の方が提供することによって、児童の日本語能力にも影響がみられた。それは、児童たちが漢字も含まれた読み札を読む時、文と認識が一致していたため、まだ漢字を習っていない状況でも推測して読むことができていたことである。また、日本の文化について指導者の方が児童たちに説明をしながらかるたで日本語を学ばせるという使い方をすることによって、児童たちの日本の文化への興味関心が向上したように見えた。

漢字も含めた50音かるたを日本語指導に活かすことによって、児童たちは、たったの1時間で多くの簡単な漢字を覚えることができ、児童や指導者の方からはとても好評であった。そのため、日本語指導に五十音かるたは有効であると考えた。



かるたをしている様子



絵札の説明をしている様子



読み札を読んでいる様子 作ったかるた

4. 結論

調査により、日本語指導があまり発展してこなかった原因は、児童たちの興味関心に沿った指導が行われていなかったからであることがわかった。私が日本語サロンにボランティアに行った最初の頃、そこでは日本語の教科書を使用して学習していた。その教科書にはイラストが添えられていたため、学びやすいものではあるが、教科書というだけでやる気が失せてしまうのかもしれないという結論に至った。よってこれからの日本語指導を発展させていくためには、児童たちの興味関心に沿った日本語教材を用意していく必要があると考えた。

そのためには、まず児童たちにどんな教材で学んでいきたいかを聞き、その後それに日本語を関連させていくことが今後の課題だ。また、今回日本語指導にかるたを使用した時に、漢字に読み仮名をふっていなかったため、児童たちが初見で読むことができなかった。それを解決するためには書いたり消したりできるペンで漢字に読み仮名を書けるようにすることが大切だと考えた。また、角をそのままにしていたため、指を切った子がいた。それは危険なため、今度また使う時までに、角を丸めておこうと思った。



使用されている教材

5. おわりに

このテーマについて探究をするまでは、あまり日本に住んでいる外国人児童について考えたことがなく、日本語指導についても考えたことがなかったため。よってそのような存在が身近にいても日本人児童と同じ関わり方をしてきたが、それが実は相手にとって苦痛であったのかとしないと、探究して初めて感じた。

日本語指導を発展させていくためには、自分の意識を変えていき、外国人児童たちに寄り添っていくことが必要不可欠であると考えたため、これからは児童たちに寄り添った考えをしていき、もっと積極的に関わりをもっていこうと思う。

6. 参考文献・出典

文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題」『文部科学省』.

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/taikai/r05/pdf/94063301_05.pdf. 令

和3年5月

桜井市国際交流協会(SIFA)日本語サロン関係者 2024年10月24日～2025年10月23日「見学及び聞き取り」

Open AI ChatGPT(2025)「かるたの文字を作成するのに使用」